

# ゆりかごだより

Vol.2  
2026年1月



Letter  
手紙

「あの時があったからこそ、今の幸せがある」

「第3回慈恵病院家族会」開催



医療法人聖粒会  
慈恵病院

## このとりのゆりかご基金

小さいのちを一緒に支えてください

日本では出生数が年間70万人を割れる一方、人工妊娠中絶件数は年間12万人を超えています。「思いがけない妊娠」「望まない妊娠」はそれほど多いということです。

妊娠の事実を隠し通さなければならない妊婦さんは、病院を受診することなく出産日を迎えます。このような妊婦さんのために『このとりのゆりかご基金』では、「SOS赤ちゃんとお母さんの妊娠相談」「このとりのゆりかご(赤ちゃんポスト)」「困窮妊婦保護施設(エンゼルルーム)」「内密出産」等の選択肢をご用意しております。

これらの活動には年間およそ5,000万円の費用がかかり、私ども中小の病院には大変重たいものです。皆さまから寄せていただいた『このとりのゆりかご基金』は、支援の必要な赤ちゃんとお母さんのために大切に使用させていただきます。

今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

温かなご寄付をお待ちしております

### 郵便局振込

【口座番号】  
01760-7-96387  
【口座名義】  
このとりの  
ゆりかご基金

### 銀行振込

肥後銀行 島崎支店  
普通預金 273221  
慈恵病院  
このとりのゆりかご  
代表 蓮田健

### オンライン振込



### 現金書留

〒860-0073  
熊本市西区島崎6-1-27  
「このとりの  
ゆりかご基金」宛

### このとりの ゆりかご募金箱

当院マリア館  
1階・2階に  
設置しております。

### 神父様に祝福していただきました

2025年12月11日(木)、当院では患者様へキャンドルサービスを行いました。職員が聖歌隊としてキャロリングしながら、島崎教会のアレッサンドロ・トゥルコ神父様と共に患者様のお部屋を全て伺いました。新生児室の前では、「このとりのゆりかご」に預けられた赤ちゃんにも祝福をいただきました。



### 泉佐野市の皆さまが視察

2025年11月26日(水)、大阪府泉佐野市職員の皆さまと、りんくう総合医療センターの皆さまが「このとりのゆりかご」を視察されました。泉佐野市は2026年度、自治体主導で「赤ちゃんポスト」に取り組む予定で、困窮妊婦保護施設(エンゼルルーム)や新生児室、分娩室などもご覧になりました。また、当院の医師と看護師の立場から、現場の対応をご説明しました。自治体主導の取り組みは全国初となり、実現へ向けて期待が高まっています。



発行:医療法人聖粒会 慈恵病院  
〒860-0073熊本県熊本市西区島崎6丁目1番27号

TEL:096-355-6131(代表) FAX:096-359-8221  
HP:http://jikei-hp.or.jp

※個人情報保護のため一部写真を加工して掲載しております。

「ゆりかご」に救われた女性の手紙

数年前の大晦日から元旦にかけて、母子ともに命を救っていただきました。あの時はまだ、お礼を伝えることができる心の余裕もなく、思い出すだけで再びあの頃に帰ってしまうようで怖くて仕方ありませんでした。けれども今は、「自分の人生を取り戻せた、もう大丈夫」と思えるようになり、ようやくお手紙を書くことができました。

自分のしたことと言いつくすつもりはありません。ただ、あの時には想像もできなかった幸せな未来を、皆さんに助けていただいたお陰で今ここに生きて迎えることができたいです。その感謝をどうしてもお伝えしたいのです。

子供が帰ってきてからも、将来への不安で心が押しつぶされそうになり、上の子にはたくさん心配をかけました。姉や友人、周りの人たちに支えもらいながら、心療内科にも通い、半年ほど睡眠薬や抗うつ剤を飲んで

いました。復職はあきらめ、自宅を売却し、母子寮に入所したのがちょうど二年前です。

その頃にかけてもらった「生きてほしい」「いつか会いたい」という言葉は、何度も心の支えになりました。そして、友人が気晴らしに外へ連れ出してくれたり、食事を届けてくれる方々がいたり、全国からお米やオムツやお菓子が届いたりしました。寮の仲間や職員さんの温かさにも助けられました。私の状況を理解した上で仕事を任せてくださる社長さんも現れました。

ご縁がつながり、海外の会社からフルリモートのお仕事をいただけるようになりました。落ち着いて働けるようになるまで、自信を取り戻していききました。上の子も小学校最後の一年を楽しく過ごし、無事に卒業して中学生になりました。下の子も転園先の保育園に慣れ、毎日ニコニコで過ごしています。私自

身も仕事で評価していただき、毎日を「幸せだ」と思えるようになりました。

ちょうどその頃、母方の叔父から「空いている実家の二階を自由に使いたい」と声をかけてもらい、三月末に母子寮を出て、今はその家でお世話になっていきます。叔父も「自分も助かる」と言ってくれ、家族で安心できる居場所ができました。上の子は早起きしてバス通学を楽しみ、私は「もう大丈夫」と心から思える生活を取り戻しました。

この一年には書ききれないほどのたくさんの奇跡がありました。今は、「あの時があったからこそ、今の幸せがある」と思えるようになっていきます。温かいご飯、優しい言葉、安心できた気持ち、そのどれもがあったからこそ、私も子供達も今日を生きることができています。本当にありがとうございます。ありがとうございました。

### 第3回 慈恵病院 家族会 開催

みんなで作ろう 家族の輪!!



#### 懇親会

場所を移して懇親会を開催。テラスではバーベキューをしてお肉やアユ、エビを焼きました。お子さん達はキッズコーナーでスーパーボールすくいや輪投げ、くじ引きをして遊びました。



#### 交流会

2025年10月11日(土)、第3回目の家族会を開催。当院で特別養子縁組した19組のご家族が参加しました。第一部の交流会では『サンバおてもやん』で準備運動した後、親子ふれあいリレーや新聞玉入れ合戦で大いに盛り上がりました。また大人はグループに分かれて座談会、お子さん達はおもちゃ作りを楽しみました。



#### また今度

最後にお土産やかき氷をお配りして、記念撮影。お子さん達も名残惜しそう、いつまでもお友達と離れたくない様子でした。たくさんのご参加ありがとうございました。